

(様式2) 【発表要旨】

＜発表者＞ 指導区名：大島指導区 氏名：穂山 浩平

1 発表テーマ

奄美群島における森林環境教育の推進

2 テーマの趣旨・目的 ＜取組課題選定の背景含む＞

奄美地域では、チップ工場の閉鎖や世界自然遺産登録に伴う森林の伐採制限など林業を取り巻く状況が大きく変化し、主伐の減少により森林の更新が進まず、森林の高齢級化も進んでいる。

このような中、地域一体となって森林の更新を促進するためには、未来を担う子どもたちに森林・林業の果たす役割や重要性について正しく理解してもらい、将来にわたり森林を守り育てる意識の醸成を図ることが必要であることから、小学校や緑の少年団を中心に森林環境教育を実施した。

また、自発的な森林環境教育を促進するためには、木育インストラクターなどの指導者の知識・技能のさらなる向上が必要であることから、活動の場の提供などを行った。

3 取組内容と課題

① 取組内容

○自然観察活動

これまで、森林を歩きながら奄美固有の動植物を観察する活動を行ってきたが、生物多様性に関する知識を深めてもらうため、児童が自ら土壌生物を採取・観察する活動を追加した。

また、動植物に対する理解をさらに深めてもらうため、町営の自然観察の森の専属ガイドを活用した園内観察を行った。

○木工体験活動

木育インストラクターの資質向上を図るため、令和5年度に登録された新規インストラクターを講師に起用した。

また、児童に奄美産木材に対する理解を深めてもらうため、リュウキュウマツの箸作りを行った。

○しいたけ駒打ち活動

奄美のイタジイからしいたけができることなどを学んでもらうため、しいたけ生産を行っている指導林家を講師に起用した。

また、しいたけ生産と森林には密接な関係があることから、森林の働きや特用林産物に関する学習を行った。

○森林環境教育の実施状況

表1 森林環境教育の内容別実施回数と参加者数

単位：回・人

区 分	R 4	R 5	R 6
木工体験	6(145)	9(262)	6(186)
自然観察	2(35)	1(12)	2(54)
しいたけ駒打ち	6(140)	7(207)	6(181)
林業体験	1(59)	0	0
計	15(379)	17(481)	14(421)

※（ ）は参加者数

表2 森林環境教育の対象別実施回数

単位：回

区 分	R 4	R 5	R 6
小学校	11	11	10
中学校	0	1	0
高等学校	1	0	0
全世代	3	5	4
計	15	17	14

表3 森林環境教育の講師内訳

単位：回

区 分	R 4	R 5	R 6
県（大島支庁ほか）	11	8	9
木育インストラクター	3	6	4
森林・林業教育指導員	1	3	1
計	15	17	14

表4 木工体験活動の材料内訳

単位：回

区 分	R 4	R 5	R 6
県産スギ	3	6	4
奄美産材	3	3	2
計	6	9	6

② 課題

- 新たに登録された木育インストラクターは経験が少なく、活動の場を求めている。
- 木工体験活動で奄美産木材を利用することにより、奄美固有の森林に関する知識や理解が深まると思われるが、奄美産木材を利用した木工体験活動が少ない。
- 木工体験活動で奄美産木材を利用する場合、奄美産木材を保有する加工業者が少ないこともあり、木材の納期や納入数量などの調整が必要となる。

4 今後取り組むべき内容

① 具体的手法又は検討方向

- 市町村や学校に対して、木育インストラクターや実施可能な木工体験活動などを企画提案し、インストラクターに活動の場を提供する。
- 木工体験活動で奄美産木材の利用を促進するため、木育インストラクターや木材加工業者の連携を強化する。
- 奄美産木材を保有する加工業者が少ないことから、できる限り早期に活動内容などの調整を行い、計画的に木材を発注する。

② 期待する成果（目標数値等を定めた場合は、その内容を含む）

- 木育インストラクターが学校や市町村のイベントに参加できるようになり、活動の場が広がるとともに、知識・技能の向上も期待できる。
- 木育インストラクターや木材加工業者の連携強化により、材料供給などの問題が解消され、奄美産木材を利用した木育を円滑に実施することができる。また、木育インストラクター同士の連携により、活動内容のブラッシュアップも期待できる。
- 奄美産木材を計画的に発注することにより、納期などの調整が軽減され、奄美産木材を利用した木育を円滑に実施することができる。